

第23回甲府家庭裁判所委員会議事概要

1 日時

平成26年7月7日（月）午後3時00分から午後5時まで

2 場所

甲府地方・家庭裁判所大会議室

3 出席者

（委員・五十音順）

石川委員，今井委員，植村委員長，小澤委員，風間委員，杉田委員，
清水委員，中澤委員，比佐委員，古屋委員，石崎委員

（甲府家庭裁判所）

渡邊首席家庭裁判所調査官，齊藤首席書記官，坂本訟廷管理官，清水
事務局長，齊藤事務局次長，高橋総務課長（進行役），望月総務課長
補佐

4 議事等

- 新任委員の紹介
- 議事進行・・・別紙「意見交換等の概要」のとおり

5 次回委員会のテーマ及び期日

追って検討

(別紙)

意見交換等の概要

(発言者 ■：委員長，○委員，□説明者)

- 1 委員長より，児童相談所が執ることのできる措置と家庭裁判所の関わりについて概略を説明
- 2 甲府家庭裁判所齊藤首席書記官より，児童虐待に関する児童相談所及び家庭裁判所における手続の概要について統計を交え説明
- 3 山梨県内における児童虐待の実情について，笠井山梨中央児童相談所長及び同相談所角田児童虐待対策幹より説明

【質疑応答】

- 児童相談所では，通告の受理から一時保護手続まではどのくらいの時間を要しているのか。
- 児童福祉司は，事例にもよるが，相談や通告を受けたその日のうちに学校訪問を行い，その日のうちに一時保護をするというのが一番早い対応となる。また，大きい病院では，病院の中に虐待防止連絡会があり，小児科等で虐待の疑いのある児童が受診した場合は，病院から児童相談所に通告が来るという仕組みもできている。
- 市町村の窓口が相談等を受ける場合，どのような人が対応するのか。
- 市町村の窓口には専門家は少ないので，保健師や非常勤の相談員等が相談を受けている。取組が進んでいる市町村では，社会福祉士の資格を持った職員を採用し相談に当たらせている例もある。

- 臨検捜索許可状の請求件数が少ないことについて、何か理由はあるのか。
- 臨検捜索許可状の請求は、全国でも年間数件程度である。山梨では、幸い、臨検捜索許可状が必要となるような重篤なケースは発生していないが、児童相談所はそのような事態も想定し、スピード感を持って子供の命を守れるよう態勢を整えている。

- 児童相談所への相談件数は右肩上がりであるが、死亡事例数は横ばいとなっている。従前は児童が死亡するような重大なケースは報告されても、その他の相談されていないケースが多かったのに対し、近年はその相談されていなかったケースが相談されるようになることによって相談件数が増加しているのではないかと思うが、いかがか。
- 社会全体で虐待は許さないという取組を続けてきた結果、隣近所の人が見て、数か月前から様子がおかしいといった通告が増えるなど、県民に意識が芽生えてきていると考えている。ただし、各県ごとで傾向は異なり、東京、大阪を中心とした都市圏では通告が増えているが、地方では異なる傾向を示している県もある。

- 虐待の発生要因について、社会心理学等と連携するなど、踏み込んだ分析は行っているのか
- 虐待の要因は1つではなく様々な要因が複雑に絡み合っていると考えている。それぞれの家庭が持っている問題は1つ1つ異なり、それぞれのケースを調査しないと要因が分からない。全国的には、虐待防止学会等で研究を行っているが、例えば経済的な要因について解決すれば防止できるかと言われるとそうではなく、一定の結論を出すのは難しいと感

じている。

- 児童相談所と警察との連携はどのようになっているのか
- 一般の方から警察に通報があり，臨場した警察官の判断で児童相談所に連絡が入り，一時保護に繋がるというケースもある。また，県警本部と児童相談所の意見交換会も行っている。虐待が疑われる両親の中には，児童相談所の説得に応じないケースや児童相談所の職員に対して激高するケースが多く，警察が介入したほうが児童相談所として対応しやすいケースも増えている。

- 親から虐待を受けている子供が，一時保護を拒否するケースはあるのか。
- 一時保護の措置を執られると，安全確保のため，学校に通うことができなくなるので，中高生等では友達に会えないなどの理由から保護を拒むケースがある。そのような場合は，嫌がる子供を無理に引っ張っていくのではなく，面接や訪問を繰り返し説得するようにしている。しかし，怪我の程度が重い場合や性的虐待の場合はすぐに一時保護をするようにしている。

- 4 甲府家庭裁判所渡邊首席家庭裁判所調査官より，児童虐待に関する事件における家庭裁判所調査官の関与について説明

- 5 甲府家庭裁判所比佐上席裁判官より，児童虐待に関する事件の審判について説明

【感想，意見】

- 最近パワハラ等のハラスメントが問題となっているが、一方、今回のテーマである児童虐待も同様の問題を抱えているのではないかと感じている。ハラスメントは社会内での問題で、児童虐待は家庭内の問題だが、双方とも自分が過去にやられてきたことを繰り返してしまうといった連鎖があるのではないかと感じている。どうすればよいのか、すぐには答えの出ない問題だが、社会全体で考えていかなければならないと感じた。

- 虐待の要因は様々であると思うが、格差や社会におけるストレスが結果としてこういった問題に繋がっているのではないかと考える。対処が難しい問題であり、歪んだ世の中を反映しているのではないかと思う。

以 上